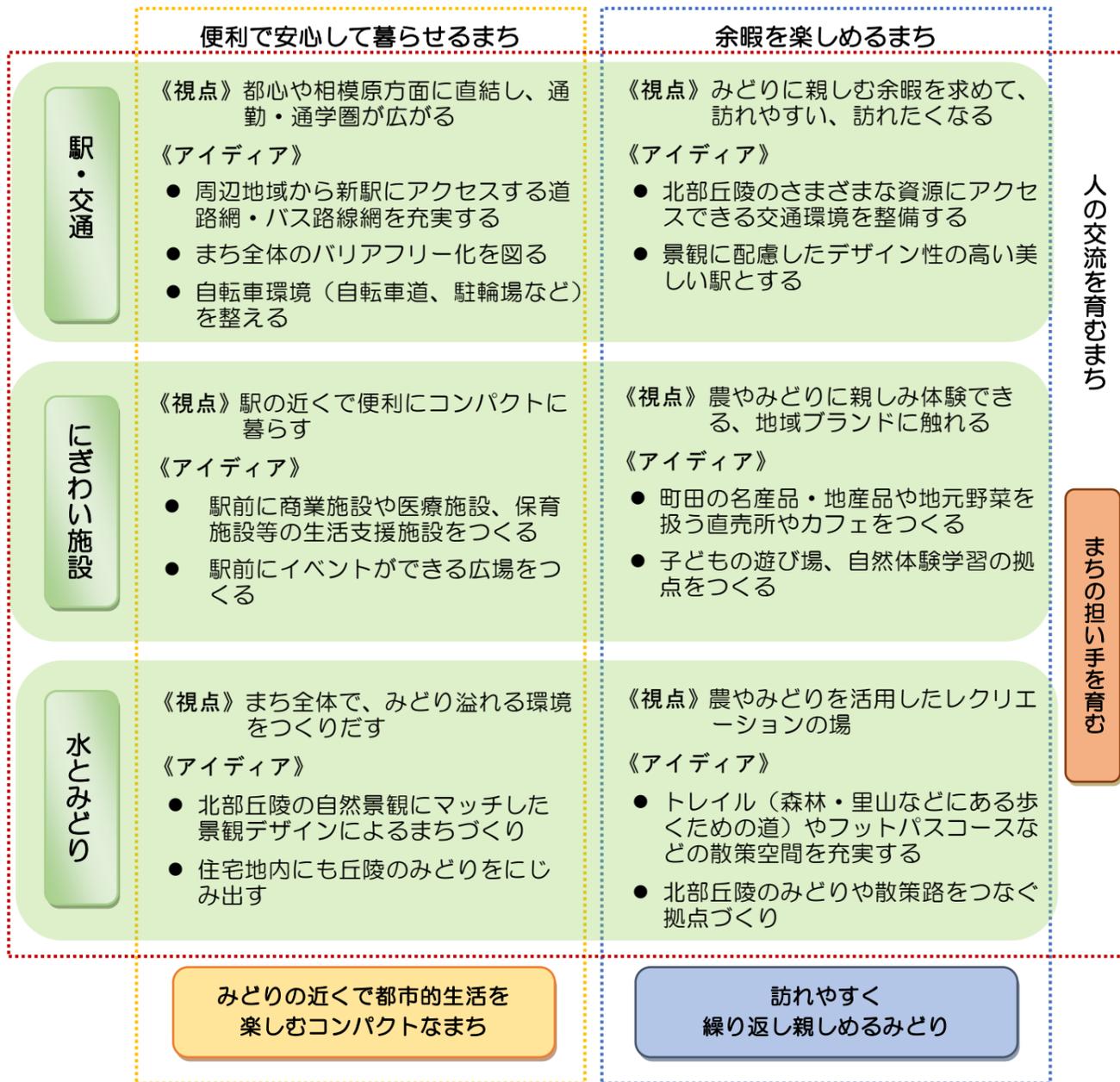


3. 新駅周辺まちづくりのアイデア

市民から頂いたアイデアを参考に、3つのまちの要素（駅・交通、にぎわい施設、水とみどり）と3つのまちづくり方針（便利で安心して暮らせるまち、余暇を楽しめるまち、人の交流を育むまち）を軸に、まちづくりのアイデアをまとめました。



4. まちづくりの進め方

○鉄道延伸の取組との連動

● 国の交通政策審議会で「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」が検討されていることから、その答申結果を踏まえた鉄道延伸の取組と連動して、計画的・段階的なまちづくりを進めていきます。

○主体間の役割分担

● 地域住民・地権者、事業者、市などの多様な主体が、まちづくりの目的を共有し、適切な役割分担のもとで主体的に取り組む、エリアマネジメントの観点からのまちづくりの推進を目指します。

【本件に関するお問い合わせ先】 町田市 都市づくり部都市政策課 都市計画係
 〒194-8520 町田市森野2-2-22 TEL 042-724-4248（直通）

小田急多摩線延伸 新駅を中心とした 小山田周辺まちづくり構想

概要版



2016年（平成28年）3月 町田市

○小田急多摩線の延伸について

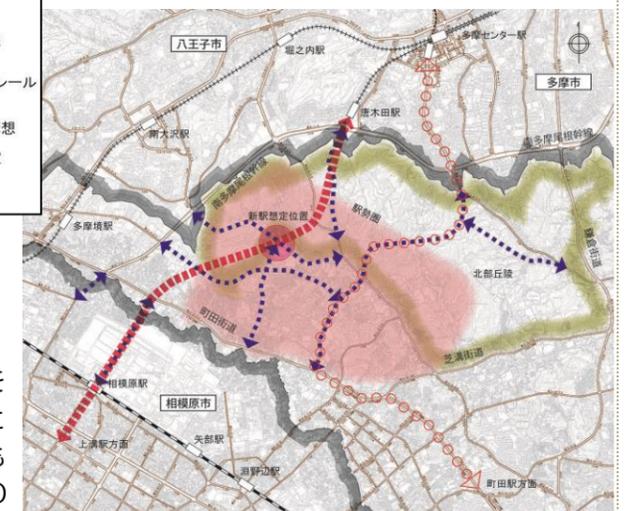
2014年5月に、町田市と相模原市は、リニア中央新幹線が開業する2027年を目標に、小田急多摩線唐木田駅から相模原駅方面の延伸開業を目指した取組を進めることで合意しました。

また、市内の新駅の位置を「小山田バス停留所付近」に想定しました。

○新駅周辺のまちづくり構想について

本構想は、新駅の駅勢圏を右図のように捉え、新駅を中心とした小山田周辺の目指すべき将来の姿を示すとともに、市民、事業者、市それぞれの“手引き”となるものです。構想策定にあたっては、市民の皆様から450件を超える「まちづくりアイデア」を頂きました。

- 凡例
- 小田急多摩線の延伸構想
 - 多摩都市モレールの延伸構想
 - 道路の整備構想
 - 駅勢圏の想定
 - 北部丘陵



まちづくり構想の策定プロセス

- 2014年度 地域特性、将来人口動態、周辺開発動向等の検討調査
- 2015年度 市民アイデア募集（9～10月実施／小山田小学校児童を含む188通466件）まちづくり構想のとりまとめ

1. 今後求められるまちづくり

町田市の人口は、2020年をピークに減少に転じると推計されています。こうした人口減少、人口構成の変化を捉えつつ、地域の魅力や特性を活かして、暮らしやすい環境で多世代が住み続けることができる「持続可能なまちの構築」を図る観点が必要です。

まちづくりの視点

- 人口構成の変化への対応
 - 地域活力の維持のため、多世代が居住するまち
 - 効率的で維持管理のしやすい都市基盤づくり
 - 世代間交流の促進による、まちを運営する担い手づくり
- 新駅設置による都市の効果
 - 駅を中心として、歩いて暮らせる生活中心地の形成
 - 交通拠点としての交通ネットワークの充実・再編
- 貴重なみどり環境への着目
 - 人々が集う地域資源、また日常生活の潤いの場として、最大限に活用することが必要

小山田周辺の地域特性

- 人口動態
 - 高齢者人口は年々増加しており、交通弱者に配慮した、歩いて暮らせるまちづくりが必要
- 土地利用現況
 - 里山の原風景が残るみどり豊かな地域と、区画整理等による新市街地が並存
 - 地形などから、新駅周辺の開発用地は限られている
- 地域のニーズ
 - 日常生活・交通の利便性向上
 - 豊かな自然環境の保全・活用
- 交通
 - 通勤通学時の自動車利用割合が高く公共交通網の不便な地域

新駅設置のポテンシャル

- 交通
 - 新宿駅への所要時間が49分となり、都心通勤通学圏として十分な位置となる
 - 新駅の乗降客数は1日あたり7.2千人程度と試算している
- 自然環境
 - 北部丘陵は、都心から1時間程度かつ最寄駅に近い大規模なみどり環境として、首都圏随一の立地特性となる
- 住宅
 - 小田急線沿線では供給戸数や価格が高い水準を維持しており、一定程度の住宅需要が想定される

2. 新駅周辺まちづくりのコンセプト・方針

みんなの広場（駅前広場）でつながる 小山田ライフ！

鉄道駅の新設を大きな契機とした新たなまちの形をつくるうえで、まちに暮らす人々にとって集まりたい場所、北部丘陵のみどりを訪れる人々にとって玄関口となるような「みんなの広場」を“まちの顔”としてしつらえ、広場を中心にまちがつながり、人がつながっていく、そんなまちの実現を目指します。

“小山田ライフ！”のイメージ

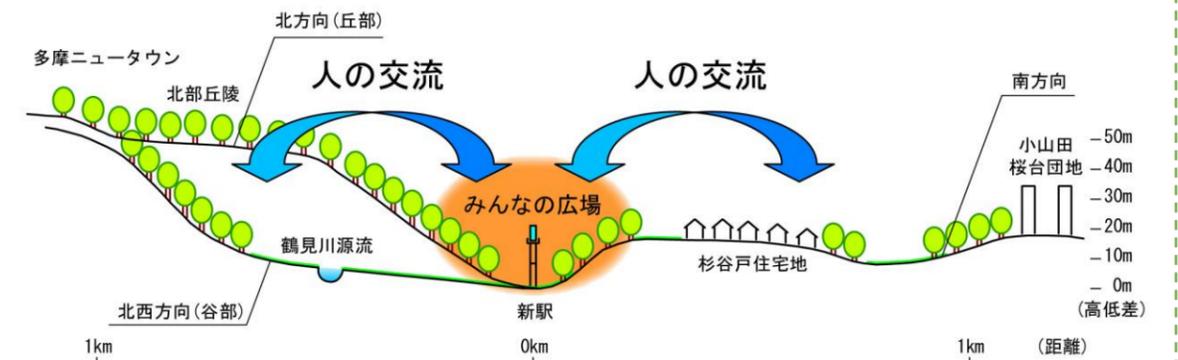
丘陵のみどりの近くで、便利にゆったりと暮らす、都市的生活と自然環境が融合した「新しい暮らし方」ができるまちとして・・・

- 駅前がまちの中心地となり、日常の買い物、医療・福祉など生活サービスを便利に利用できる
- まち全体からみどりが溢れ出るように、街並み景観が整えられている
- “みんなの広場”でたくさんの人と顔を合わせて、様々に活動できる
- 鉄道・路線バスを使って、市内外の多方面に移動しやすい
- 地域で働き、活躍する場がある



地形から見た“つながり”

- 地形的な特徴を有する小山田周辺のまちづくりは、首都圏に残る貴重なみどり資源である、北部丘陵と住宅地・団地の高低差を活かして、駅南北が機能的につながる駅前拠点を形成するとともに、みどりや地形を活かした景観づくりが大切です。



※上図は景観市民サポーター報告書「町田をわぎる！」でのわぎりの考え方を参考に作成しました

= まちづくり方針 =

便利で安心して暮らせるまち

公共交通を使って移動しやすく、日常生活に必要な機能がコンパクトに集積したまちであり、かつ、豊かな自然環境を満喫しながら暮らせるまちづくりを目指します。



《まちづくりの方向性》

- 高低差を意識した駅南北の駅前機能（みんなの広場・交通拠点）の分担と歩行者ネットワークの形成
- 骨格的な道路網・日常生活を支える道路網とバス網の充実
- 新駅や自然環境のポテンシャルを活かしたライフスタイルを楽しむことができる多様な居住機能の導入
- 駅前・道路沿道における生活支援・福祉・教育その他サービス機能の誘導

余暇を楽しめるまち

来訪者と居住者、子どもからお年寄りまで、誰もが北部丘陵のみどり・農・水辺を気軽に訪れ、楽しめるまちの実現を目指します。
“広域的な癒しの拠点”である北部丘陵への玄関口として、魅力的で象徴的な駅前空間を創出することが大切です。

《まちづくりの方向性》

- 駅前や駅前道路沿道における身近な商業・業務、文化、観光、交流等の都市機能の誘導
- 鶴見川源流や小山田緑地など、周辺のみどり資源に連なる親緑・親水ネットワークの形成
- 丘陵のみどりや高架の鉄道駅からの眺望を活かした、駅前景観の形成
- 来訪者を迎える情報提供・情報発信機能の充実

人の交流を育むまち

みんなの広場を中心に、地域のコミュニティ活動や、住民・来訪者同士の多世代にわたる交流を通して、小山田周辺の愛着や一体感が育まれるまちづくりを目指します。

《まちづくりの方向性》

- 多様な世代、多様な主体間の交流を生み出すコミュニティ・交流機能の導入
- 地場野菜の直売やイベント・祭事など、みんなの広場での多様な活動を通じた交流の機会づくり
- 北部丘陵でのみどりの保全・活用の取組を通して、まちの担い手育成と環境教育の展開

